



(1) 学習定着部会


☆望ましい学習習慣を身に付けるために、読書に親しむ子供80%以上を目指す

<p>取り組んだこと</p> 	<p><読書活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間をしっかりと確保し、朝から落ち着いて学習に取り組む雰囲気をつくるようにする。 ・学級で図書室へ行く時間を設けたり、お勧めの本や記事を紹介したりして、本等を手に入る機会を増やす。 ・読書の質が向上するように、国語の教科書で紹介されている本を表にまとめて紹介する。 <p><自学学習の奨励></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを学年ごとに配布し、家庭学習が充実するようにする。 ・自学ノートを掲示し、自学ノートの質の向上につなげていく。 <p><その他、学力向上に向けて></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ベル着・授業の用意 ② 読む力だけではなく、 <ul style="list-style-type: none"> ア 最後まで聞く力 イ 書く力 ウ 考えをもって発言する力 エ まとめる（うみ出す）力 ③ 自学ノートでも上記イ・ウ・エを指導し、学びの質を高められるようにする。  <p>を育てることを意識して、書物や新聞を活用する。</p>
<p>最終評価 A</p>	<p>・今年度の読書冊数（低学年50冊、中学年34冊、高学年17冊）を 84%達成することができた。教師の働きかけによって、読書活動に取り組む子供の姿が見られるようになった。しかし、読書カードへの記入は、忘れがちになる子供も多いため、子供たちが目標冊数の達成に向けて、自主的に読書活動に取り組む姿につなげていくことが今後の課題である。</p>
<p>考 察</p>	<p>・今年度は、学期ごとに目標冊数を決め、学期ごとに評価しながら読書活動を進めていくことで、毎日の積み重ねが1年間の達成率につながった。</p> <p>・朝の読書タイムには落ち着いた雰囲気を読書活動に取り組めるようにしたり、読書カードへの記入をこまめに呼びかけたりしたことも効果的であった。子供たちが本を読んだことを実感できるようにすることが大切である。</p>

(2) 「あったか言葉」定着部会



☆心の込もった挨拶や相手を思いやった行動（手伝い）ができる子供が80%以上を目指す

<p>取り組んだこと</p>	<p><挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生時から意識して挨拶や会釈、廊下の歩き方の指導を徹底していく。体育館や特別教室への往復は教員が引率して、周囲に配慮した静かな移動や挨拶・会釈の手本を示すようする。 <p><思いやりの心の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間は、黙働の徹底を図る。そうすることで、ごみや汚れに気付き自主的に清掃に励んだり、手が足りていない清掃箇所自らの判断で手伝いにいける心を育てる。 ・家の手伝いをする週間を設ける「あつまれ！にこにこ家族」では、手伝いを継続的に行わせることで、子供の意識を改革していく。家庭の協力を得て、相手を思いやる気持ちや、ふるまい（挨拶も含む）の大切さに気付かせたい。
----------------	--

<p>最終評価 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の挨拶や会釈がよくなった。担任がいなくても、廊下ですれ違う際に挨拶や会釈ができる子供が増えた。しかし、他の学年においては学級によって差があった。 ・「あつまれ！にこにこ家族」を継続的に行うことで、手伝いのよさに気付く子供や、誰かに感謝されることに喜びを感じる子供が増えた。学校でも、人の困り感に気付けるようになったり、手伝えることを積極的に探したりする子供が増えた。また、保護者からのアドバイスを求める機会を設けたことで、効果的な声掛けや手伝いの種類を広めることができた。
 <p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や会釈の大切さは特に中学年以上に浸透してきているように感じる。日々の声掛けだけでなく、家庭との連携が大切である。 ・他者を思いやる気持ちを育てることで、挨拶の心も育つ。 ・「あつまれ！にこにこ家族」では、にこにこ家族新聞や学校便り等を通じて、積極的に家庭へもアプローチした。手伝いができる子供が増えた理由として、学校と家庭が連携したことが大きかったのではないかと考えられる。 ・子供に与える手伝いの種類や、子供への効果的な声掛けに悩む保護者に対して、実践例を紹介することにより、手伝いをする子供が増えたと考えられる。 ・にこにこ家族週間には、子供に振り返りをさせ、保護者からもコメントをもらった。担任からも個々にアドバイスを行うことで、効果を上げることができたと考えられる。

(3) 心と体の健康づくり部会

☆「運動、体を動かす遊びが好きである」「なかよしタイムに運動を楽しむことができた」と自己評価する子供75%以上を目指す

<p>取り組んだこと</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムに楽しく身体を動かし、子供たちにとって交流の大事な時間となるよう、様々な運動の提案、環境づくり、遊具の充実化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 1学期（おにごっこ、大縄跳び、体力テストの運動等） 2学期（おにごっこ、走る遊び、縦割り班での大縄跳び記録会） 3学期（短縄跳び、縦割り班での大縄跳び記録会） ・運動委員会を中心に、西部小学校の体力の弱点（握力、投力）を意識した遊びや運動を企画する。 ・目当てをもつことを大切に、自分の心と体の実態を見つめ、頑張りたいことを意識して取り組んでいけるようにする。 ・アンケート（ゲンキッズ）で子供の実態を踏まえ、保健の指導の方向を決めていく。 <ul style="list-style-type: none"> → メディア+早寝早起き（生活習慣）など、子供たちの実態をつかみ、よりよい生活習慣に向けて、指導の方向を相談して決めていく。 ・縦割りの異学年交流では意図的に他学年と交流して体を動かす活動を計画に位置付けていく。 ・運動会100m走では、自分の目当てや成長を意識できるように記録の取り方、生かし方を工夫する。 ・運動会の100m走の個人の記録を継続して取っていく。 ・大縄跳びの記録会を行い、縦割り班で協力しながら記録を伸ばせるようにする。短縄跳びでは、全校統一の記録カードを活用する。頑張りをしっかり評価する場をもつ（運動委員会のお知らせ等）。 ・縦割り班での大縄跳び記録会では、異学年での交流を通して、協力したり助け合ったりする姿勢がうまれるようにする。 
<p>最終評価 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動、体を動かす遊びが好きである 全校83% <ul style="list-style-type: none"> 1年 86% 2年 88% 3年 85% 4年 87% 5年 81% 6年 75% ・なかよしタイムに運動を楽しむことができた 全校78% <ul style="list-style-type: none"> 1年 93% 2年 75% 3年 70% 4年 90% 5年 67% 6年 75%
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動、体を動かす遊びが好きである」という子供が83%となり、目標を上回った。 ・縦割り班での大縄大会では、異学年で交流しながら体を動かす子供の姿が多く見られた。 ・大縄大会に向けて、明確な目標回数や記録が分かりやすいように取り組めば、より主体的に取り組む子供も多かったのではないかと考えられる。 ・気温が低くなってくると、室内で過ごす子供が増えたが、室内でできる遊びや3015を運動委員会が推進することで、縄跳び等で体を動かす子供の姿が見られた。 ・仲良しタイムの遊びがマンネリ化していることや、大縄跳びの練習では、人数が多く待ち時間が長いなどの課題も見られた。

